九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

[029] 語文研究表紙奥付等

https://hdl.handle.net/2324/10240

出版情報：語文研究. 29, 1970-11-30. 九州大学国語国文学会
バージョン：
権利関係：

◇学会彙報

▼講義題目　昭和44年度第一学期

（大学院）国語学特研（訓点資料読解）　春日　教授
（大学院学部）　〃　演習（万葉集巻三譬喩歌）　春日　教授
（　〃　）　〃　特講（近代の文法論）　春日　教授
（学　部）　〃　講義（概論―文字および正書法の問題）　春日　教授
（大学院）国文学特研（圏外文学の研究）　中村　教授
（　〃　）　〃　演習（談義本）　中村　教授
（大学院学部）　〃　講義（近世文学史）　中村　教授
（学　部）　〃　講読（雨月物語）　中村　教授
（大学院）国文学特研（古代歌論史）　今井助教授
（大学院学部）　〃　特講（平安女流文学の基盤）　今井助教授
（学　部）　〃　演習（源氏物語、末摘花）　今井助教授
（大学院学部）　〃　講義（近代作家論）　重松　教授
（学　部）国語学特講（上代仮名と音韻）　森山助教授

▼講義題目　昭和44年度第二学期

（大学院）国語学特研（訓点資料読解）　春日　教授
（大学院学部）　〃　演習（万葉集巻三）　春日　教授
（　〃　）　〃　特講（近代の文法論）　春日　教授
（学　部）　〃　講義（概論―音韻について）　春日　教授
（大学院学部）　〃　演習（近世語丹波与作冥途の飛脚）奥村助教授
（大学院学部）　〃　特講（国語アクセントの研究）　奥村助教授
（学　部）　〃　講義（国語史近代語の歴史）　奥村助教授
（大学院）国文学特研（圏外文学の研究）　中村　教授
（　〃　）　〃　演習（談義本）　中村　教授
（大学院学部）　〃　講義（近世小説史）　中村　教授
（学　部）　〃　演習（好色一代男）　中村　教授
（大学院）　〃　特研（伝記研究の諸問題）　今井助教授
（大学院学部）　〃　演習（源氏物語、帚木）　今井助教授
（学　部）　〃　講義（紫式部の伝記）　今井助教授
（大学院学部）国文学講義（夏目漱石作品研究）　重松　教授
（学　部）国語学特講（上代仮名と音韻）　森山助教授
（学　部）国文学臨講（連歌史の諸問題）　島津助教授

愛知県立大学

▼講義題目　昭和45年度第一学期

（大学院）国語学特研（古訓点読解〔内典〕）　春日　教授
（大学院学部）　〃　演習（万葉集四巻）　春日　教授
（　〃　）　〃　特講（文法論の諸問題）　春日　教授
（学　部）　〃　講義（概論―文字および仮名遣い）春日　教授
（大学院学部）　〃　演習（近世語丹波与作冥途の飛脚）奥村助教授
（　〃　）　〃　特講（方言研究）　奥村助教授
（学　部）　〃　講義（近代語史）　奥村助教授
（大学院）国文学特研（文壇の構成）　中村　教授
（　〃　）　〃　演習（蕪村七部集）　中村　教授
（大学院学部）　〃　講義（近世歌論史）　中村　教授
（学　部）　〃　演習（好色一代男）　中村　教授
（大学院）　〃　特研（伝記研究の諸問題）　今井助教授
（大学院学部）　〃　演習（源氏物語、帚木）　今井助教授

（学　部）　仝　講義（紫式部の伝記）　今井助教授
（　仝　）国語学特講（万葉集の訓詁）福岡女子大学鶴　教授

▼昭和44年度卒業論文題目

学部
谷崎文学における恋愛について　前田　玲子
源氏物語「もののまぎれ」考　秋武　洋子
室生犀星の研究　加藤　憲江
芥川龍之介「地獄変」について　壁屋　憲人
夏目漱石「道草」論　亀井　正明
南総里見八犬伝の研究　平山　浩
西鶴の俳諧〔雑録〕　山内百合子
石川淳研究　渡辺　啓子

大学院
近世初期小説の発想法の展開　若木　太一
馬内侍集研究　福井　迪子

▼九大国語国文学会総会並びに研究発表会
昭和44年6月1日　於志賀島町国民宿舎しかのしま苑

研究発表
国語的表現の変遷—助詞「とて」の用法の種々相から—　添田建治郎
狭衣物語の和歌について　森下　純昭
「西鶴名残の友」の挿絵について　若木　太一
日本書記私記の諸問題　福田　益和
平治物語諸本研究上の基礎的一・二の問題　笠　栄治
源氏物語における予言をめぐって　徳満　澄雄
南九州方言に痕跡を残す二・三の語の系統　秋田　義昭
法華百座聞書抄における文体の問題　春日　和男
福田良輔先生へ肖像写真贈呈

▼九大国語国文学会総会並びに研究発表
昭和45年6月7日　於志賀島町国民宿舎しかのしま苑

研究発表
堤中納言兼輔論　工藤　重矩
図書寮本類聚名義抄の仮名音注の性格　田尻　英三
「羅生門」の改変　海老井英次
義仲像の虚実をめぐつて　笠　栄治
給黎と姶羅について　秋田　義昭
「春されば」万葉集巻十「春之在者」をめぐつて鶴　久
国語音韻史料としての平曲譜本　奥村　三雄

▼十九回西日本国語国文学会　昭和44年9月21・22日　於　熊本女子大学

研究発表（本会会員関係のみ）
馬内侍集における編纂意識の特質　福井　迪子
西鶴の「大笑ひ」について　井上　敏幸
『西華集』について　石川　八朗
古本説話集の接続詞について　山口　康子
老の文学としての徒然草　佐々木雄爾
薩隅方言における砂・土・石についての一考察　秋田　義昭
中世における表記の問題　平井　秀文
「かがやく日の宮」の巻をめぐつて　伊藤　博
公開講演
九州の島々の方言について　上村　孝二

▼新入会員歓迎会　昭和45年2月7日

本年度進学生一六名を迎え、鹿鳴春で歓迎会を挙行。

▼会員消息

蘆塚民弥氏(昭和二十八年卒業)は、去る四十五年二月一日逝去されました。衷心より御冥福をお祈り申し上げます。

▼新刊案内

福田良輔教授退官記念論文集

昭和四十三年九州大学を退官された、福岡良輔教授の長年の功労と学恩への感謝の微意を表すべく、先生の薫陶を蒙った方がたを中心に編集、出版されたもの。先生の学風を反映し、語学、文学にわたる論考二十八篇が上代から近代まで、概ね時代順に排列されている。内容は次の通りである。

目　次

献辞

福田良輔教授略年譜・研究著作目録　真武　直

上代特殊仮名の音位と音価　藤井茂利

上代日本文献に見える漢字「叱」について
—朝鮮系音仮名をさぐりつつ—

上代ウ列表記の変遷について
—その後母音性の検討—　森山　隆

額田姫王覚書　吉永　登

人麿短歌の一様式
—「名ぐはしき」(三〇三)の歌を中心として—　中原勇夫

万葉調続貂　瀬古　確

万葉集における正訓文字の訓法
—念・思について—　鶴　久

「日本霊異記」の訓釈について
—訓読との関係をめぐって—　遠藤嘉基

興福寺日本霊異記に見える「徴」字の訓釈について　春日和男

源氏物語和歌対隅考　目加田さくを

仲文集試論　今井源衛

改編本系類聚名義抄の成立時期について　築島　裕

副詞の語性と今昔物語集のADV型　原　栄一

万葉語と万葉調　—新古今歌風形成の問題として—　島津忠夫

「絵詞平治」(塩釜神社蔵本)について　笠　栄治

中世の注釈書における推量語の把握
—古今秘註抄を中心に—　佐田智明

徒然草における「文芸」
—中世の価値観との関連において—　井手恒雄

『松陰中納言物語』の成立　中村忠行

お伽・お伽衆小考　松田　修

「に」と「へ」の混用
—近世初頭九州関係資料の場合—　原口　裕

真野長幸略傳　野間光辰

なりひら一代記・河内通・業平昔物語の関連　横山　正

『本朝文選』についての一二の問題　大内初夫

虚実皮膜論の再検討　中村幸彦

西鶴・西海両吟歌仙評釈
—志賀島の想い出によせて—　白石悌三

李太郎文学の一問題

―情調劇の方法について―　重松泰雄
稿改 琉球方言の太陽を意味する語について　上村孝二
中期モンゴル語に保存されたモンゴル語の非派生的長母音　村山七郎

後記

昭和四十四年十月三十日発行
編集兼発行者　九州大学文学部国語国文学研究室
福田良輔教授退官記念事業会
印刷　大日本印刷株式会社　〔非売品〕

瀬古　確著『万葉風物誌』

『太宰府園の歌―万葉の国筑紫―』・『日本文学の自然観照』と、日本文学における自然の探求を続ける著者が、万葉集の風物・相聞の世界に、美しい随筆風の筆致で、万葉の「みやび」の諸相をさぐったもの。著者は病臥中に綴った小品を、「肩のこらない随筆によって、少しでも万葉人口をふやす事ができればと」の念願のもとに出版したと記す。細目は次の通りである。

第一篇　万葉風物誌―「みやび」の世界―

一春の永日・二風流たる花・三天の白雲・四垣つ柳・五茜さす紫草・六古を恋うる鳥・七飛鳥風・八歩め吾が駒・九星の林・十一つ松・十一白真弓・十二野辺の秋萩・十三山の黄葉・十四野に立つ鹿・十五下草の露・十六鳴く葦鶴・十七雁の使・十八秋の長夜・十九靡く玉藻・二十大雪・二十一万葉集に於ける風物の群落―季のものの形成と「みやび」の淵源―・二十三古今集より見た万葉集の風物

第二篇　鄙と都―「みやび」と実生活―

一東路の歌・二神奈川の万葉・三紀路の歌・四越路の歌・五筑紫路の歌・六都の歌・七秋の大和路・八糟湯酒と水葱の羹―貧富の生活―・九妹と背―相聞の世界―・後記・索引

（昭和45年5月　教育出版センター　一二〇〇）

近代文学研究（法政大学）5
文学論輯（九州大学）16
日本文学研究（大東文化大学）8
国語国文学会誌（学習院大学）12
高知女子大学紀要（高知女子大学）17
同志社国文学（同志社大学）4
説林（愛知学立大学）17
国文学研究（梅光女学院大学）4
高知大学学術研究報告17―5・10・12
九州文化史研究所紀要14
一橋論叢61巻2～6・62巻1～3
甲南国文（甲南女子大学）16
実践文学（実践女子大学）36・37
鹿児島大学文科報告4・5
豊臣物語創刊号（磯野英子）
横浜国立大学人文紀要1巻14　2巻15
帝塚山学院大学研究論集3
中世文芸（広島大学）43～45
札幌大学教養部女子短期大学部紀要1

（注1）以下「日本書紀私記甲本」をこう略称する。
（注2）拙稿「日本書紀私記（甲本）について（大分工業高等専門学校研究報告、第6号）
（注3）太田晶二郎「上代に於ける日本書紀講究」（本邦史学史論叢上巻）の中
376ページ……注(一)弘仁私記序辨、394～395ページ……注(三)、(四)に解説されている。
（注4）（注3）同書。394～395ページ
（注5）数字は、新訂増補国史大系本のページ数。以下同じ。
（注6）西宮一民「書紀古訓序説」（皇学館大学紀要三）
（注7）「平安時代語新論」（東京大学出版会）313～322ページ仮名字体表。
（注8）増補本居宣長全集第二、849ページ
（注9）日本古典大文学大系「日本書紀」上178ページ頭注二
（注10）（注3）同書395ページ注一四
（注11）大野透「万葉仮名の研究」明治書院965～966ページ
（注12）（注11）同書996ページ
（注13）春日政治「聖語蔵本菩薩善戒経点」1ページ（訓点語と訓点資料第四輯吉澤義則博士追悼号）
……「古訓点の研究」所収「古訓雑記」にも見ゆ。
（注14）大坪併治「訓点語の研究」所収「ア・ハ・ヤ・ワ・四行の混同」55ページ
（注15）吉田金彦「天理図書館蔵韻字集（詩苑韻集）和訓一覧」（訓点語と訓点資料　20輯）
（注16）藤堂明保「漢字の語源研究」（学燈社）266ページ
（注17）（注14）同書、50～51ページ
（注18）築島裕「興福寺本大慈恩寺三蔵法師伝古点の国語学的研究、研究篇」103ページ
（注19）（注14）同書64ページ
（注20）日本古典文学大系「日本書紀」上234ページ頭注一
（注21）（注20）同書、34・35ページ

▼受贈図書　43年7月～45年3月　（前号よりの続き）

東予の文学碑Ⅰ	愛媛国語国文学会
続字彙補	中村　幸彦
在在詞に関する研究	春日　和男
閑吟集歌句総索引	山崎　賢三
花山院の生涯	今井　源衛
貞門俳諧自註百韻―翻刻と研究―	深沢　和男
逐次刊行物目録昭41年版	国立国会図書館
訓点語と訓点資料38・39	訓点語学会
斯道文庫論集第6・7輯	斯道文庫
定本室積徂春句集	平川　巴竹
近代日本文章史	瀬古　確
淀劇博物館収蔵品図書目録第14号	演劇博物館
飛鳥・白鳳古瓦展	奈良国立博物館
高梁稈	浅井　龍勇
明治大学刑事博物館目録28～30号	明治大学刑事博物館
漢書列伝竺桃抄	尾道短期大学国文研究室
日本語文法論	藤井　専蔵
日本古典と人間	土田県治郎

む」。古今和歌六帖（3733）無名のみ立田の山のさね蔓人に知られでくる由もがな」。拾遺集（699）なき名のみたつたの山の青つゞら又くるひとも見えぬところに」等の用い方による。

15、「左大将」も固有名詞でなく、三人称表現ではあるが、この家集では、特定個人朝光をさしていると思われ、「男」「女」とか「去りにし人」などの表現とは、意識の上で自ら異っていると見られるので、それらとは区別して考えた。

〈付記〉

本稿は、去る昭和四十四年九月二十一日西日本国語国文学会に於て発表した草稿に加筆したものである。

建禮門院右京大夫集校本及び総索引　井狩　正司
咸宜園蔵書目録　杉本　勲
古典対照語い表　宮島　達夫
福田良輔教援退宮記念論文集　同教援退宮記念事業会
乾いた空　小宮　隆弘
善本写真集30～33　天理図書館
近世文芸資料と考証Ⅵ　棚町　知弥
密田教授退宮記念論集　同事業会編
竹馬狂吟集　木村三四吾

▼受贈雑誌　昭和44年1月～12月

白路　24巻Ⅰ～4・6～12　八雲　29巻Ⅰ・4・7～11
上代文学研究会々報（東洋大学）19
文芸研究（東北大学）60・61・62
肇国32巻1・6～8
国文学論叢（竜谷大学）14
淑徳国文8・9
明治大学教養論集46・51・52
相模女子大学紀要31・32
城（城同人会）38
国文学―言語と文芸―（東京教育大学）61・65
文学論藻（東洋大学）40・41・42
成城文芸（成城大学）52・53・55
国語国文学（名古屋大学国語国文学会）23・24
国文学―解釈と教材の研究―（学燈社）14巻2～15
国語国文（京都大学）37巻12・38巻1～11
語文（日本大学）31
文芸研究（明治大学）20
文学部紀要（中京大学）3巻1
国語学（東京大学）75・76・77
国語と国文学（東京大学）46巻1～8
人文研究（神奈川大学）40・41・42
人文学研究所報（神奈川大学）4
国語国文学研究（熊本大学）4
萬葉（関西大学）70・71
能楽思潮50・51・52・53
演劇研究（早稲田大学）3
学苑（昭和女子大学）349～360

上げられる場合、それは、日本人を消極的、復古的、保守的にするための教材であってはならない」と著者はいっている。今日まで多くそうであったし、教育を受ける側にとってはそれゆえに面白からぬものでありがちだった徒然草学習に、今日の若い者の批判を導入する形において活発な論議が起さるべきであろう。著者はさらに、「これは今後の日本文芸の研究なり国語教育なりに、こうあって欲しいというわたしのマニフェストである」という。大胆、率直な批判であるだけに、著者のいうとおり、今後いっそう論争が盛んとなり、その中から真理が見いだされなければならないであろう。

（昭和44年10月　世界書院　八六〇円）

言語文化（一橋大学）5
日米フォーラム（米国大使館広報文化局出版部）15巻2・8
国文学研究（早稲田大学）38～40
国学院雑誌（国学院大学）69巻11・12・70巻1～9
有明工業高等専門学校紀要4
古典と近代文学（有精堂）4・5
東横国文学（東横学園女子短大）1
岐阜県方言地図（岐阜国語学研究会々誌一）加藤毅
学術研究（早稲田大学）17
成城国文学論集1
コロニア文学7・8・9
女子大国文（京都女子大学）52・53
国語国文研究（北海道大学）41・42
野州国文学（国学院大学栃木短大）2・3
愛知県立大学文学部論集19
学大国文（大阪教育大学）12
大阪市立大学文学部紀要　人文研究20・6
金沢大学教育学部紀要17
龍谷大学論集388
金沢大学法文論集（文学篇）16
鶴見女子大学紀要6
文芸と思想（福岡女子大学）32
清泉女子大学紀要16
琉球方言（琉球大学）9・10合併号
国文（お茶の水女子大学）30
近世文芸稿（広島大学）15
薩摩路（鹿児島大学）13
文学論集（佐賀大学）10
田唄研究（広島女子大学）11
日本文学（東京女子大学）32・33
跡見学園国語科紀要17
連歌俳階研究（俳文学会）36
短大論叢（関東学院女子短大）36
愛知大学国文学（愛知大学）10
国文鶴見（鶴見女子大学）4
研究紀要（大阪大学医療技術短大）1